

* 調査の詳細は、ホームページをご覧ください。

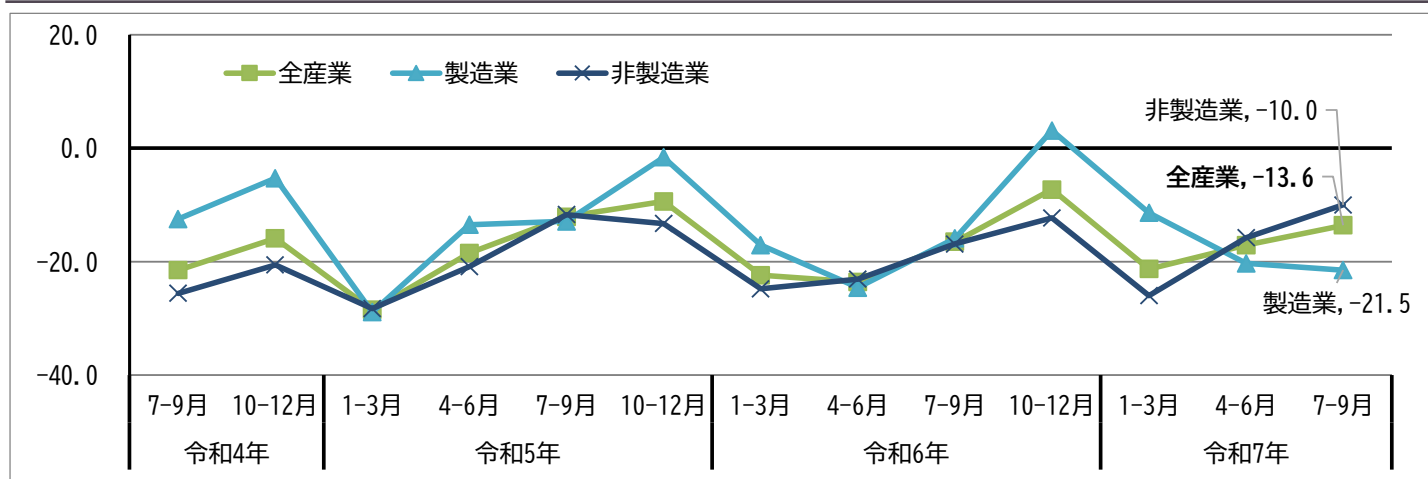
アイル 景況調査



業況判断DIは全産業・非製造業で改善、製造業は悪化

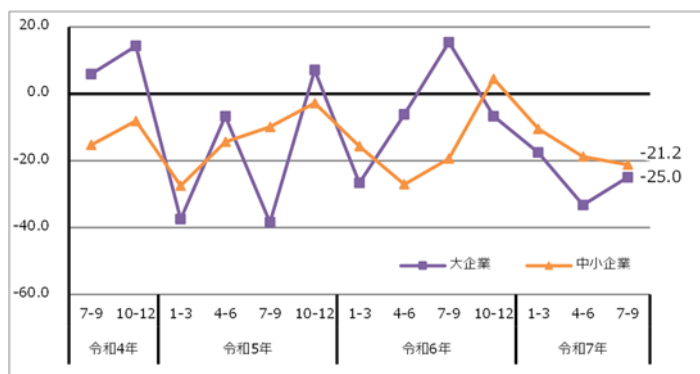
- ◆製造業（規模別）の業況：大企業で改善、中小企業は悪化。
- ◆非製造業（業種別）の業況：卸売業、小売業、サービス業で改善、建設業で悪化。
- ◆従業員の過不足：全産業、非製造業は横ばい、製造業は不足感が強まる。
- ◆DX への取組みの状況：全産業で 18.7%。製造業の規模別では大企業が 45.5%と高い。
非製造業の業種別では、建設業が 34.1%と最も高い。

◆業況判断（前期比）注（ ）内は前回調査との差を示します。



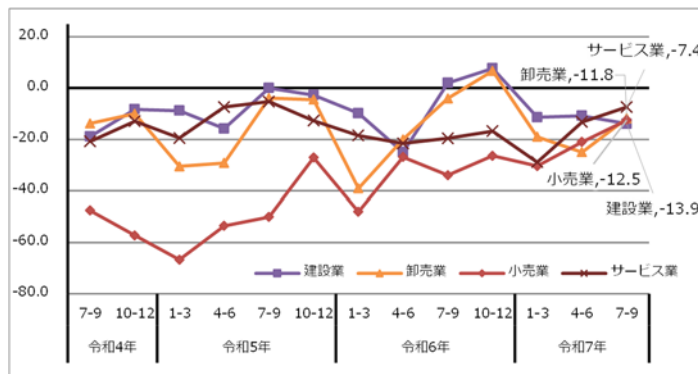
<製造業（規模別）>

【大企業】は▲25.0（+8.3）で改善、【中小企業】は▲21.2（-2.4）と悪化しました。



<非製造業（業種別）>

卸売業は▲11.8（+13.2）、小売業は▲12.5（+8.5）、サービス業は▲7.4（+5.8）と改善、建設業は▲13.9（-3.1）で悪化しました。



DI とは

景気動向指数「デフュージョン・インデックス（Diffusion Index）」の略。「好転」（または「上昇」「増加」「過剰」）と回答した企業の比率から「悪化」（または「下降」「低下」「不足」）と回答した企業の比率を差し引いたもので、業況の方向感を測るための指標です

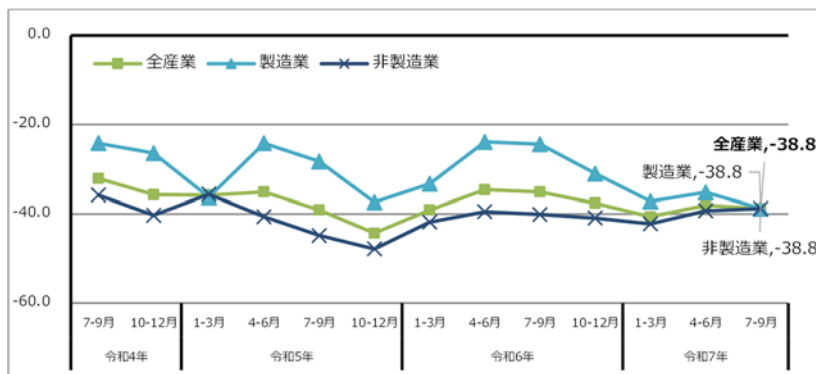
◆業界天気図



業種 項目	全産業	製造業			非製造業				
		全体	大企業	中小企業	全体	建設業	卸売業	小売業	サービス業
今回業況判断DI値									
前回との差									

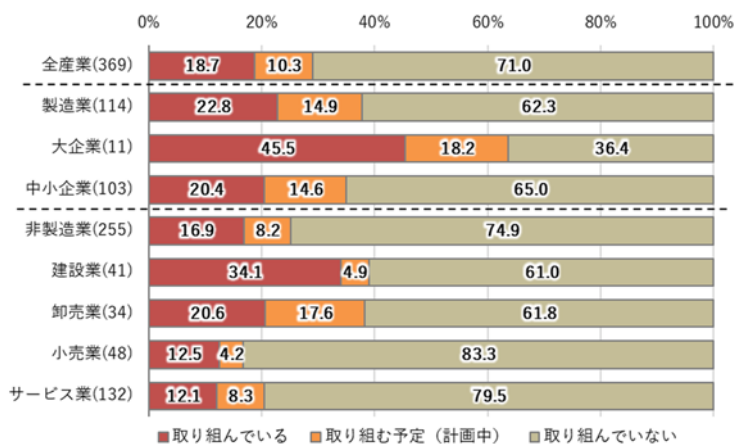
◆従業員過不足

- ・従業員の過不足 DI は、▲38.8 (-0.7) で、不足感は横ばいとなりましたが、高い水準です。
- ・製造業は▲38.8 (-3.6) で不足感が強まり、非製造業は▲38.8 (+0.5) と横ばいとなりました。



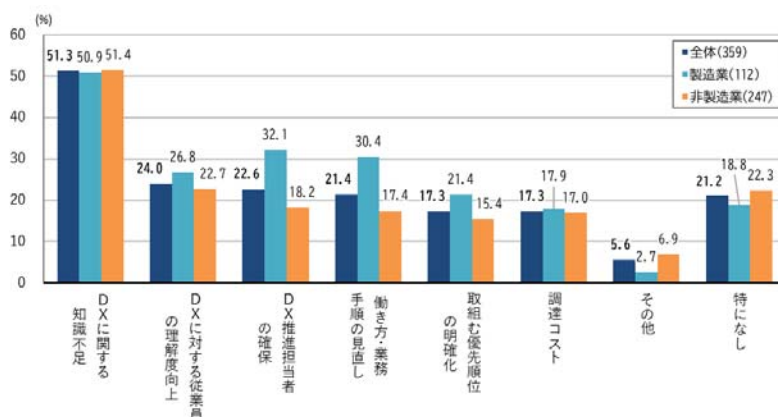
◆DX への取組みの状況

- ・DX は、「デジタル・トランスフォーメーション」の略。デジタル技術で人々の生活をより良いものに変革する、という意味です。
- ・「取り組んでいる」は、全産業で18.7%
- ・製造業の規模別では、大企業が45.5%と非常に高くなっています。
- ・非製造業の業種別では、建設業が34.1%と、他の業種に比べ最も高くなっています。



◆DX に取組む際の課題

- ・全体、製造業、非製造業とも「DXに関する知識不足」が最も高く、50%以上となりました。
- ・「DX推進担当者の確保」「働き方・業務手順の見直し」「DXに対する従業員の理解度向上」「取組む優先順位の明確化」「調達コスト」において、製造業が非製造業を上回る割合となっています。



<本資料の問い合わせ先>

- 尼崎市 経済環境局経済部 イノベーション推進担当
 - (公財) 尼崎地域産業活性化機構 OIC 推進室
- <https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

担当：南條・織田

担当：宮崎・桂山

連絡先：06-6489-6675

連絡先：06-6488-9534